



◇◇◇ずしし環境会議とは◇◇◇

ずしし環境会議は逗子市が掲げける環境基本計画のなかの行動等指針にもとつづき、ゴミ問題、二酸化炭素削減、自然・景観において逗子市の環境への働きかけとしてゴミ問題部会、二酸化炭素削減部会、まちなみと緑の創造部会の3つの部会に分かれて活動しています。

それぞれの分野の学識経験者等による講演会を開催し、身近なテーマから世界的なテーマまで市民の皆様と逗子の環境について考えるきっかけになることを目的としています。

◇◇◇今号の各部会記事の紹介◇◇◇

◎まちなみと緑の創造部会

- 逗子の昆虫500展ふりかえり
- 名越緑地レポート
- 昆虫観察会
- 逗子市小中学校教諭研修会

◎ごみ問題部会

- フェイスブックページ開設
- 逗子市民まつり出展

◎二酸化炭素削減部会

- 活動報告(2023年1月~2023年8月の主な活動)
 - 出前授業(中学校向出前授業、小学校向け出前授業、教育委主催 夏季研修)
 - 地球温暖化防止啓蒙活動(トモイク、ずしグリーンライフフェス参加)
- 地球温暖化防止 適応策
 - 今からさらに平均気温が上昇するとどのような事が起こるか?このような事態に備えて何が出来るか?何をする必要があるか?

◇◇◇今後の予定◇◇◇

◎逗子市民まつり出展 2023年10月22日 10時~15時(荒天中止) @池子の森自然公園陸上競技場

- まちなみと緑の創造部会(オナモミダーツ等)
- ゴミ問題部会(ウニ殻をアップサイクルしたランタンづくりワークショップ)
- 二酸化炭素削減部会(ソーラーパネルと電車で競争等)

◎逗子市かんきょう講演会

令和5年度逗子市かんきょう講演会(2024年2月)は国立研究開発法人海洋研究開発機構の研究者をお招きして、近年の異常気象と地球環境の関連性について身近な問題として紐解きご紹介いただく予定です。

ご講演者：地球環境部門 大気海洋相互作用研究センター センター長 米山邦夫 博士



まちなみと緑の創造部会 ニュース

当部会では、「逗子の自然環境を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。

◇◇◇逗子の昆虫 500 展をふりかえって◇◇◇



私たちの部会では3月に行われた逗子トモイクフェスティバルと6月に行われたずしグリフェスに「逗子の昆虫 500 展」を出展いたしました。企画の発案者で中心になって準備した当会の小林さんの言葉を織り交ぜながら逗子の昆虫 500 展のスピリットをお伝えします。

小林さんは小学生のころ、山あり川ありの自然に恵まれた田舎で育ち、毎日のようにトンボを追いかけバッタやセミを取って走り回っていました。大人になっても生きもの大好き人間で、今回は「逗子の身近な自然にはどんな生きものが暮らしているかを多くの皆さんに知ってもらいたい、触れてもらいたい」という思いで企画したそうです。

「写真の選定と虫の同定にすごく時間がかかりましたね。普段からあまり整理がよくないので（苦笑）」と準備の苦労を語ります。7年前から自宅付近の林縁の昆虫を観察し、撮影した膨大な写真の中から500点余を選びました。

写真はできるだけ楽しく見る事が出来るように屏風仕立てにし、合わせて昆虫標本も展示しました。標本は小林さんのご近所で昆虫標本を作製している穴口さんが主に逗子市内で採集したものを提供いただきました。圧巻なのは昆虫ごとに大きさに合わせた透明なケースに入れて展示することで標本を傷めずに手に取ってまじかで観察できることです。



さらに顕微鏡や図鑑、食草コーナーなども置いて昆虫の魅力幅広い年齢層に見ていただけるように展示しました。

4日間で1200人の来場者があり、新聞やニュース紙などでも取り上げられ『想像をはるかに超える充実の企画』という声もありました。小林さんは「何よりも多くの子どもさんたちが標本を見たり顕微鏡をのぞいて喜びと驚きの歓声を上げているのが印象的でした。まさに次世代につながる企画になったのではないのでしょうか」と振り返ります。

一方で、7年の間観察・撮影を続けてきた中で気づいたことがあるといます。「温暖化の影響がありますね。今まで逗子にいなかったチョウや甲虫がいたり逆に以前いた昆虫などが見られなくなっています」。昆虫の置かれている状況にも思いを馳せる小林さんは、「今後とも自然との触れ合いを通じて豊かな心を育む活動をしてまいります」と人と自然のつながりを大切にしたいと話していました。

◇◇◇名越緑地レポート◇◇◇

名越9丁目に逗子で最後に残された谷戸があります。わたしたちは名越緑地里山の会にも所属しており、田んぼや畑の作業以外の湿地部分の作業を担当しています。たくさんの動植物が暮らせるように湿地の草刈りや水路の整備をして、生きものにとってよりよい環境づくりをしています。

春から梅雨の時期の名越は、穏やかな日々が続き、雑草も元気に育っていたので、通路部分を中心に草を刈り、細かい泥で埋まりがちな水路の整備を行ないました。今年は、梅雨が明けたあと雨があまり降らなかったため水の流れが少なくなり、いくつかある池も水たまりと呼んだ方がいいようなときもありました。

夏の時期は、昆虫観察会を2回開き、それぞれ30名ほど参加していただきました。講師のあつぎ郷土博物館 槐^{えんじゅ}先生からは、明るい原っぱや林に近いところなど環境の違いで住む昆虫が違っていることなどを教わり、また名越は住宅地の中にありながら、池子の森公園と同様に変化に富んだ貴重な自然環境があり、大切に守ってほしいとコメントをいただきました。

他にも逗子市小学校の先生による視察があり、住宅地でもなく山の中でもない、逗子では近年見ることが出来なくなった里山の風景を見ていただきました。そして、人々が生きるためには様々な生物が暮らしている環境を保ち続けることが必要で、この名越を次世代に残していくことが大事ですと、感想をいただきました。

湿地整備の作業に興味があるかた、是非わたしたちと一緒に作業してみませんか？

下の記事も合わせてご覧ください。

◇◇◇昆虫観察会 8月20日（日）名越緑地◇◇◇

講師にあつぎ郷土博物館の槐^{えんじゅ}先生を迎え、昆虫観察会を開きました。小さな子ども達が保護者の方とともに数多く参加し、元気に賑やかに楽しい学びをすることができました。

観察できた昆虫は、トンボ類では、シオカラトンボ雌雄、オオシオカラトンボ雄、ショウジョウトンボ、アジアイトトンボ、オニヤンマ。他にカマキリ類、セミの抜け殻、バッタ類、アゲハチョウの仲間など、多くの生き物を観察することができました。



オニヤンマの翅を指にはさみ、トンボの見分け方を説明する槐先生の話聞く子ども達。



「先生、アゲハチョウを捕まえました。」「翅のこのところを見てごらん。」槐先生から観察の仕方を聞く。

◇◇◇逗子市小中学校教諭研修会（逗子の自然員関連研修）8月1日（火）名越緑地◇◇◇

逗子市小中学校の先生達からの依頼による研修を行いました。テーマは、私達まちなみ部会が取り組んできた名越緑地整備の活動と、そこに生息する生き物達（今回は植物が中心）です。講師は当部会の前部会長と現部会長が務めました。概要を報告いたします。

- ・この名越緑地（谷戸）は、開発されずに残った数少ない自然です。ただ、下の溜池には、外来種のブラックバスやアメリカザリガニが放流されてしまったので、今は池の中には在来種よりも外来種がたくさんいます。
- ・谷戸の南側斜面にはアカガシ、スダジイ、アオキなどの常緑樹が中心となって繋がり、北側斜面には竹林、シダの他にコナラ、ムラサキシキブなどの落葉樹が中心となって繋がっています。この日は他に、ミヨウガ、ヤブミヨウガ、キツネノカミソリなども観察できました。
- ・谷戸の奥からは水が湧き出ている、サワガニやヤマアカガエルなども観察できました。



ヤマグワの木の下で。参加十数名



ゴミ問題部会 ニュース

ゴミ問題部会はごみの減量化・資源化をテーマに活動しています。

◇◇◇ゴミ部会・Facebook アカウント作成しました！◇◇◇

2001年から活動開始している「ずしし環境会議・ごみ部会」！

ごみ部会では「どうやったらゴミの総量を減らせるか？」「どうやったらごみの廃棄による生物など自然への環境負荷を減らせるか？」の2本柱をモットーに、ゴミ拾いだけでなく、地元高校生と連携したイベント開催など活動を進めています！

そんな私たちの活動をより広く知ってほしい、何だったら仲間を増やしたいということからFacebook ページを作成しました！

「ずしし環境会議・ごみ部会」で検索いただき、ぜひフォローください！

<https://www.facebook.com/profile.php?id=61551629609314>



◇◇◇ウニ殻をアップサイクルランタンづくりワークショップを開催！◇◇◇

来る市民祭りにて、地元の高校生とも連携してウニ殻をアップサイクルしたランタンづくりを行います！

全国的に問題となっている藻場の減少。海藻類が減ることで魚類の産卵場所がなくなったり、海藻中に含まれるミネラルが減り、植物プランクトンを捕食していた魚が来なくなるなど、様々な影響があります。

藻場減少自体は地球温暖化など色んな要因が絡んで起こっており、鋭意研究者により原因解明の研究が進められていますが、要因の1つとして挙げられるのが”ウニの大量発生”。

海水温が暖くなることでウニの発生が増え、増えたウニが海藻をバクバク食べて、海藻類が減少することが確認されています。

実はこの現象、逗子の海岸にも起きています。

この現象に立ち向かうために、逗子市のみならず全国的にウニ駆除が行われていますが、ウニも1つの生きものであり命であり、駆除するだけではなく様々な形で活用していこうということで、ハロウィーンに向けてランタンづくりを開催したいと思います！

藻場減少やウニの大量発生を通じて、海ゴミやマイクロプラスチックなど人間活動による環境への影響を親子で楽しく学んでみませんか？

ウニを獲るところは事務局で行う予定ですが、「逗子のウニとってみたい！」という方いらっしゃいましたら、ぜひフェイスブックページでコメントください！



二酸化炭素削減部会 ニュース

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の削減のための活動を続けています。

◇◇2023年1月～2023年8月の主な活動◇◇

1. 出前授業

(1) 中学校向出前授業

- ・ 卒業前の3年生向けに、逗子中（2023/2/20）、沼間中（2023/2/21）で「地球温暖化の現状と対策」と題して授業を実施しました。
- ・ 残念ながら、久木中についてはスケジュール調整が合わず実施出来ませんでした。
- ・ 2023年度の予定
沼間中：2023/12/中、久木中：2024/2/29-3/1に3年生を対象に実施するペースで調整中です。
逗子中：2024/1/初頃に、3年生は昨年講演を行っているため、2年生を対象に実施するペースで調整中。

(2) 小学校向け出前授業

- ・ 小学校向け出前授業を、
逗子小学校：2023/9/13、池子小学校：2023/11/21
に実施予定です。そのほかの小学校とはスケジュール調整中です。

(3) 教育委主催 夏季研修

- ・ 2023/8/21に教育委員会教育研究相談センター主催の小中学校の先生向け夏季研修で、「教師のための環境学習講座」と題して出前授業を行ないました。
- ・ これを機会に、小中学校の環境教育担当の先生方と本年度の出前授業のスケジュール等のお話がありました。

2. 地球温暖化防止啓蒙活動

(1) 2023/3/25～3/26 逗子トモイクフェスティバル

- ・ 「ソーラーパネルと電車で競争」を出店し盛況でした。

(2) 2023/6/10～6/11 ずしグリフェス（ずしグリーンライフフェス）

- ・ 「ソーラーパネルと電車で競争」を出店し盛況でした。省エネチェックシートを約40枚配布しました。
- ・ 「地球温暖化の現状と対策」と題して講演しました。

◇◇地球温暖化防止 適応策◇◇

地球温暖化は、産業革命以来の世界の平均気温が約1.1℃を越え、すでに緊急事態に入っていると思われています。（図-1 参考下さい）

産業革命以来の世界の平均気温の上昇を1.5℃以下に抑えようと、「2050年までに二酸化炭素排出量ゼロ」「2100年までに温室効果ガス排出量ゼロ」を目標とするパリ協定が2015年に結ばれました。

温暖化防止対策として、具体的には下記の2本の柱が提唱されています。

- ① 省エネ
- ② 再生可能エネルギーへの転換

この対策は、「緩和策」と呼ばれています。しかしながら、「緩和策」により、温度上昇1.5℃以下が達成されたとしても、今からあと約0.4℃上昇します。達成できなければ、3℃以上上昇する可能性があるのです。即ち、あと0.4℃以上上昇しても持続可能な地球にする必要があります。これを「適応策」と言います。

今からさらに平均気温が上昇すると、どのような事が起こるか？

想像力を発揮して列挙してみると、

- (ア) 梅雨末期の大雨は、毎年のように各地で過去の最大雨量の記録を更新し増え続けもっと多量に降る。
- (イ) 2019年の15号台風(最大瞬間風速、千葉で約60m/s)よりもっと強い風が吹く。

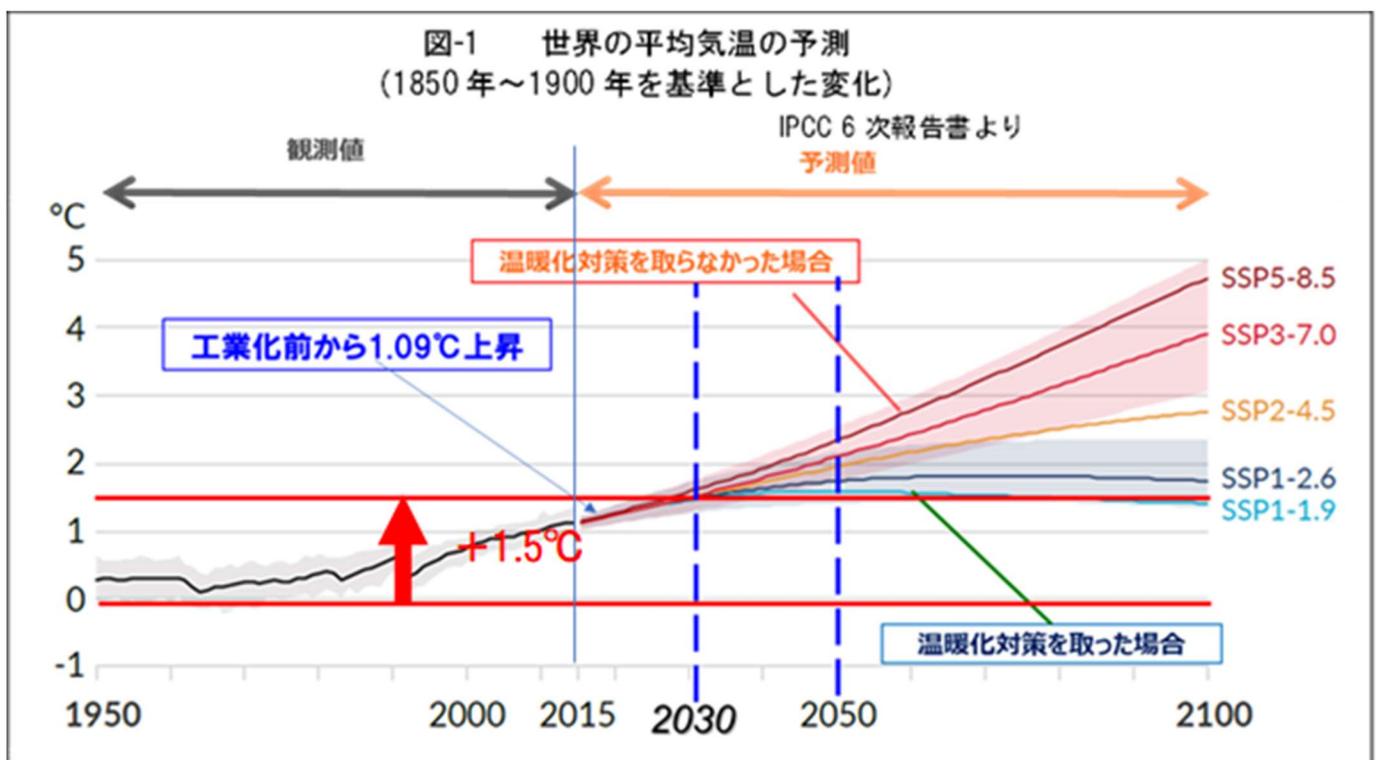
- (ウ) 2019年の19号台風(箱根で24時間に942mmの雨)よりもっと多量の雨が降る。
- (エ) 今より海面が1m上昇すると、逗子や富士山の標高が1m低くなり、高潮などが発生し易くなり、浸水の危険性が高まる。
- (オ) 東京では、過去100年間で約3℃上昇し、今の平均気温は100年前の最高気温、今の最低気温は100年前の平均気温となっています。(図-2参照) 即ち、もし今から平均気温が3℃上昇すると平均気温は今の最高気温となり、最高気温は今より3℃以上上昇する(8月は毎日最高気温が35℃以上)ことになる。
- (カ) もし、3℃上昇したら熱中症で亡くなる方が1万人を超えるのではとされている。(2020年に熱中症で亡くなった方は約1528人)
- (キ) 既に夏の高温で、コメ粒の内部が白く濁る白未熟粒(しろみじゅくりゅう)や胴割粒(どうわれりゅう)が発生、他にはリンゴの色付きが悪くなるなどの現象が発生している。(図-3参照)
- (ク) 海水温度上昇や黒潮の流れの変化により、海洋環境も影響を受ける。サンマが不漁だったり、サンゴが沖縄では白化し本州近海では異常発生したりしている。
- (ケ) 逗子では、十数年前には見られなかったナガサキアゲハ(図-4)やクマゼミ(図-5「シャッシャ」と鳴く)が、今は生息域を北上させて普通に見られます。チョウやセミばかりではなくダニやヒトスジシマカなどの生息域も北上し、熱帯性の感染症(重症性血小板減少症候群、デング熱、ジカ熱など)が発生すると予想される。
- (コ) これらの他にも色々ありそうです。

このような事態に備えて何ができるか、何をやる必要があるか、考えてみました。

- ✓ 政治家・行政・自治体は、過去のデータに囚われない長期の災害・治水対策をする必要がある。
- ✓ 市民は、災害発生に備えて、食料・水の備蓄をし、ハザードマップや避難場所などの確認をしていざと言う時に身を守る。
- ✓ 熱中症対策として、家のZEH化や高効率のエアコンを設置する。
- ✓ イネや果樹などの品種改良や栽培方法の改善を図る。
- ✓ 栽培作物や果樹の種類の変更や、養殖魚や捕る魚種の変更を考える。
- ✓ 熱帯性などの新しい感染症対策を今からしておく。
- ✓ この他にもやる事・やっておくべき事は沢山あると思います。

勿論、「緩和策」は重要で1.5℃以下達成のための施策や行動変容が必要ですが、SDGsの考え方からは、同時に「適応策」を検討し実施しておく必要があると考えます。

詳細は下記の参考資料などでご確認下さい。



気温の月変化 東京 【1900～1909】と【2010～2019】

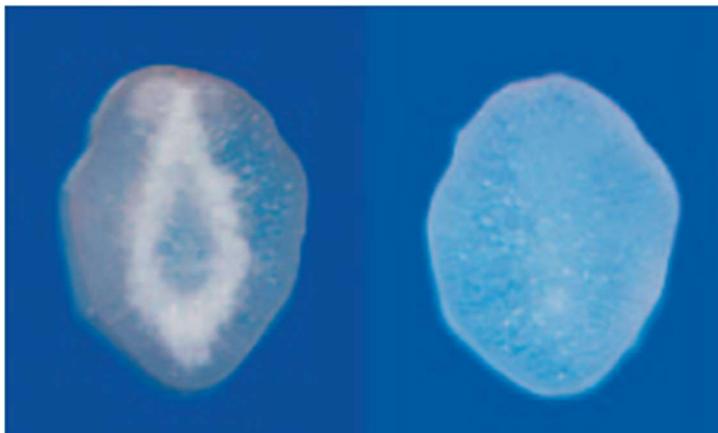
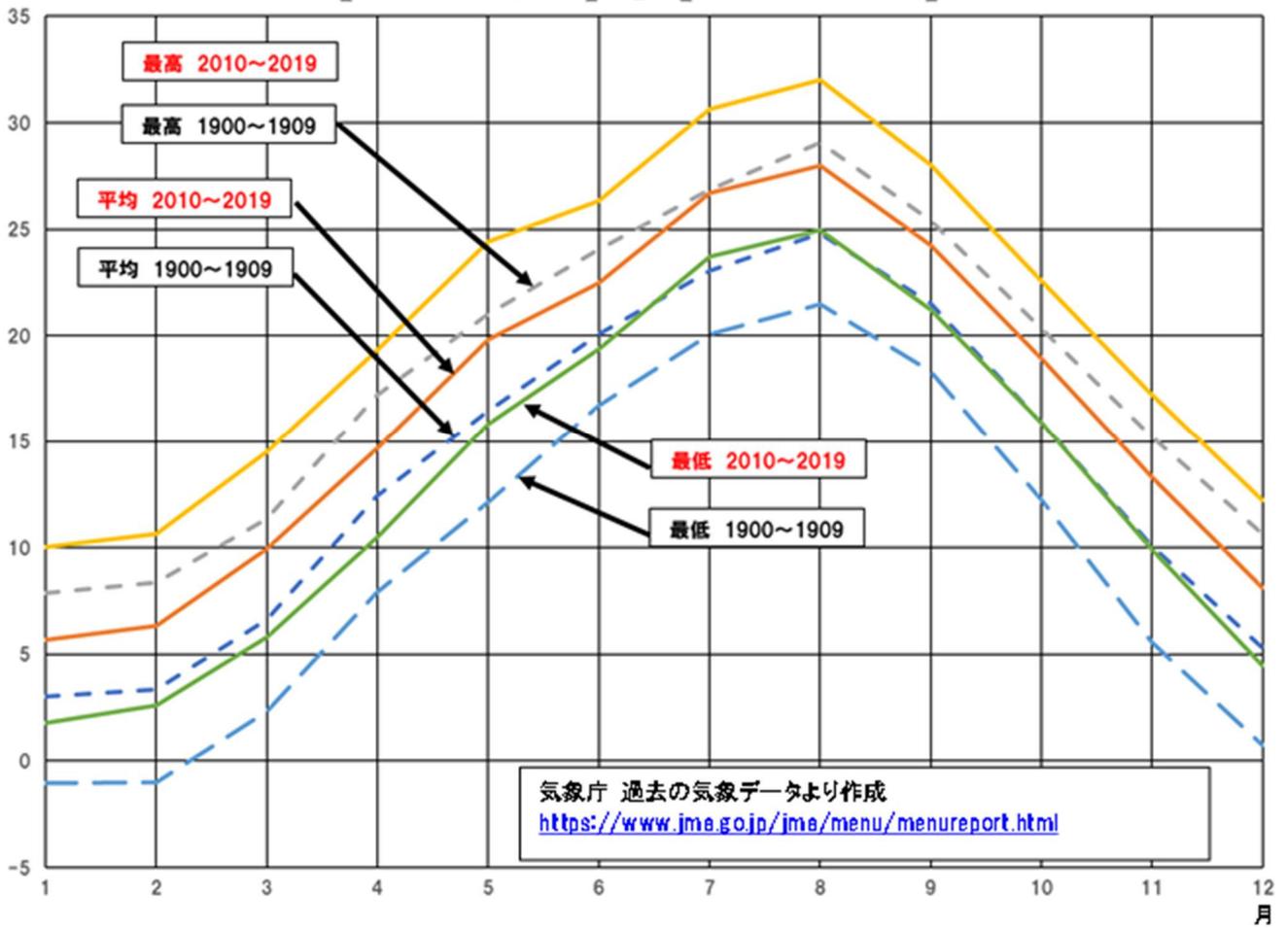


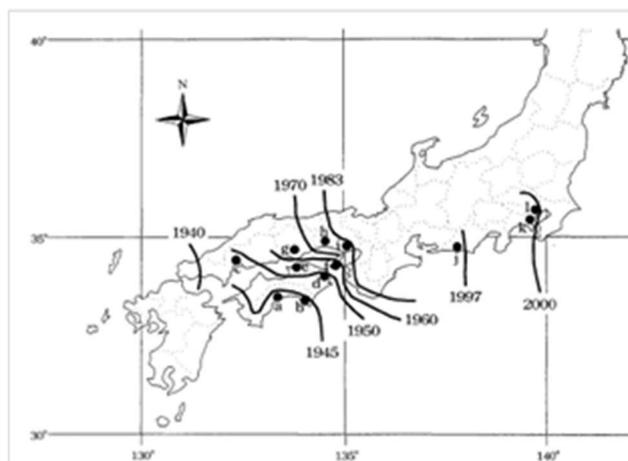
図-3 白未熟粒 (左) と正常粒 (右) の断面



図-5 クマゼミ

図-4 ナガサキアゲハの分布域変化

<https://ja.wikipedia.org/wiki/ナガサキアゲハ>
地球温暖化防止コミュニケーターガイドブック WG2 より作成



(●2010年度、●2009年度)

参考資料

IPCC6 次報告書

第1分科会

<http://www.env.go.jp/press/109850.html>

第2分科会

<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg1/>

第3分科会

<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg2/>

統合報告書

<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg3/>

<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-cycle/>

気象庁 世界の平均気温／過去の気象データ

https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_wld.html

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

厚生労働省 熱中症による死亡者数

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyuu/necchusho20/index.html>

消防庁 熱中症救急搬送状況

https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/items/heatstroke_geppou_2019.pdf

気候変動適応情報プラットフォーム

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/plan/index.html>

気候変動適応計画

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/plan/government/npcca.html>

環境省 地球温暖化「日本への影響」

<https://www.nies.go.jp/whatsnew/2014/20140317/20140317.html>

<https://www.nies.go.jp/whatsnew/2014/20141110-4.pdf>

農水省 地球温暖化が農林水産業に与える影響と対策

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/report/pdf/no23.pdf>

地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響評価と緩和及び適応技術の開発

<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2039014665.pdf>

環境省 地球温暖化防止コミュニケーター ガイドブック WG1、WG2、WG

https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/lets_coolchoice/logo_download/learning/

ずしし環境会議ニュース

2020年10月号、2021年10月号、2022年2月号、10月号、2023年2月号

<https://zushikankyo.jimdofree.com/>

執筆者：二酸化炭素削減部会部会員 荒木